提言２　　住民にやさしい除雪について

Ⅰ　提言の背景・趣旨

豪雪地帯である西川町の道路の除雪は県内でも高い評価を得ているが、近年大雪が続いていることから、多くの町民にとって厳しい生活環境となっており、負担に感じる声が聞かれるようになっている。

通勤や通院など、日常生活のなかでの除雪の負担を軽減しなければ、人口減少に拍車をかけることになり、町の存続にも係る問題であると言える。

また、町道であっても国道と同じように、救急や火災にいつでも対応できる除雪体制をとることは、生活する上での最低限の条件であるといえる。

半年間雪に埋もれる西川町のような豪雪地帯であっても、だれもが快適で安全に暮すための対策が求められている。

Ⅱ　提言内容

１．道路の除雪について

（１）町道の２４時間確保

①救急車や消防車がいつでも通れるようにすること。

②早朝勤務や深夜帰宅ができるようにすること。

（２）住宅入口前に雪を置かない除雪体制の整備

高齢者世帯だけでなく各世帯の住宅入口前には可能な限り雪を置かないようにすること。

２．流雪溝の整備について

（１）寒河江川の水利用の具現化

国や県に働きかけ、許認可を得られるようにすること。

（２）慣行水利権の課題解決

①地元だけで解決することは難しいので、町は積極的に協力すること。

②町民みんなが克雪について学習する機会を設けること。

３．流雪溝が作れない場所の、日々の除雪の負担軽減対策について

（１）負担軽減対策

①身近な場所に雪捨て場を確保し、町が定期的に排雪を行うこと。

②時間を決め、出勤前に敷地内の雪を道路に出し、除雪車で排雪するなど具体的な対策を講じること。

（２）若者対策

若者が定住できる環境を整備するために意見を聞き、対策を講じること。

４．高齢者支援について

（１）確実に支援できる体制の整備

人手がほしい時に、順番待ちとならない体制を整備すること。

（２）無理なく支援できる体制

①町内会など身近な単位でボランティアを組織し、地区住民全員が活動内容を理解できるようにすること。

②地域内ボランティアだけで解決できない状況になった場合に備え、支援体制を整備すること。

③支援ボランティア活動への支援策を講じること。

・除雪機械購入に対する補助

・除雪機械燃料代に対する助成

月山ふれあいカード商品券の活用など、町内経済循環も考えること。

５．利雪・克雪の学習活動について

（１）町民に役立つ情報の提供

雪の利活用や生活する中での除排雪のあり方、機材の活用方法、雪を楽しむ生活などについて、積極的な情報の提供を行うことができるようすること。

（２）町民が学習できる場の提供

雪を克服するための学習活動ができるようにすること。

・必要最小限の除雪のあり方

・安全確保のために必要な除雪のあり方

・融雪のための地下水や湧水の活用の研究

・融雪機材の研究

・雪室の研究

・雪を楽しむ生活のあり方

６．国や県、大学などと連携した雪対策研究所の誘致について

日本一雪が多い場所に集落がある町の特異性を生かして、国や県、大学等の研究機関を誘致すること。